

## 祝 天草の崎津集落が世界遺産登録 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産



熊本学(世界遺産)コース 第1回

## キリスト教の伝来と肥後 ~天草五人衆とキリスト教~

天草市觀光文化部文化課世界遺産・文化財係 主任 中山 圭 氏

天草には、天草五人衆と呼ばれる戦国領主がいた！ 世界は大航海時代でアジアとの交易が始まっていた  
1549年ザビエルと共に鹿児島に上陸した宣教師の中にトルレスがいた。（彼が初のキリスト教大名を誕生させた）

志岐麟泉（志岐城）	キリスト教の保護と入信1566年（1570年棄教）
天草鎮尚（河内浦城・本渡城）	1569年（入信は1571年）
大矢野種基（大矢野城）	1587年
栖本親高（栖本城）	1588年
上津浦種直（上津浦城）	1590年（9歳か10歳の少年）

当時の天草は人的資源や農業資源に恵まれていなかったが、海上流通しやすい環境にあり海商や倭寇とつながっていたと思われる。

1550年代上天草では、西北九州勢力（松浦氏・大村氏・有馬氏・相良氏）を交えた栖本氏と上津浦氏の戦いがあり、上津浦氏を支援した松浦氏の鉄砲隊の威力に天草の領主たちは驚いた！

志岐麟泉は1566年  
ポルトガル人修道士  
ルイス・デ・アルメイダを招く

目的は、「ポルトガル人の船が  
己の港に来る利益のため」



眼下に海が広がる高台にある志岐城址・林泉神社

天草鎮尚は1569年  
アルメイダを招聘

目的は南蛮船



天草市  
キリスト平和像の足下  
にあるアルメイダ  
記念碑

武器や物資の他、医療など多くの知識を身につけた  
宣教師の存在は魅力的だった！

マカオから船便の都合が良いため宣教師会議が  
1568年・1570年の2回開かれるが、南蛮船は  
1度しか来航せず、麟泉は4年で棄教。



アルメイダは元は医師と商人の顔を持つポルトガル人。宣教師トルレスと出会い宣教師になり布教活動を続けた。

1587年天草五人衆は豊後へ従軍。  
その時大友氏の武将志賀親次氏（大友宗麟の秘蔵っ子）に包囲され  
生命の危機に陥った時、キリスト教  
であったことで一人だけ助命申し出  
された天草鎮尚の子久種が「五人衆は一心同体」として全員の助命  
を願い、許された。

大矢野氏と栖本氏の入信は志賀氏  
の影響もあったか？

何故天草の地にキリスト教の信者が根付いたのか  
領主は南蛮貿易による利益を求め、住民たちは領主からの  
トップダウンだったことと、アルメイダの病気を治す医療技術  
や福祉事業などによって信心を深めていった。

## 1587年（天正15年）秀吉はバテレン追放令を発布する

そのころ肥後は秀吉の時代に二分されて、加藤清正と小西行長に与えられていた。

## 小西行長（洗礼は1584年）

肥後南部14万石  
宇土・八代・益城・  
矢部・天草



## そのころ天草では

1589年、天草五人衆が「行長私普請成難」と行長の宇土城築城の協力をめぐって対立。行長に清正・大村・有馬・五島・松浦氏も助成し、五人衆と天正天草合戦に発展。（五人衆には普請だけでなく禁教策や海賊停止令、肥後国衆一揆の仕置きへの不満もあったか？）

志岐城・本渡城落城後終結。麟泉を除き五人衆許される。

行長は、文禄慶長の役で全国の目が朝鮮における戦いに向いている時に、  
秘かに天草でキリスト教団を育成させていた。

\* 天草合戦では、木山弾正と清正の一騎打ち、清正の妻お京の方の兜梅伝承などが残っている  
「清正記」

フロイス「日本史」

行長の政治姿勢 → 秀吉家臣とキリスト教武将の両立



五人衆が信仰の種を撒き、  
行長が信仰の花を咲かせました。  
そして今世界遺産登録されました。  
住む人に誇りを！訪れる人に感動を！

素晴らしい歴史を  
持つ「天草の崎津  
集落」を応援して  
ください。

